

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 北海道博物館協会 会長をお引き受けするにあたって

北海道博物館協会 会長 堀 達也  
北海道開拓記念館 館長

このたび、丹保憲仁前会長のあとを受けて、北海道博物館協会の会長をお引き受けさせていただくことになりました。

わたくしは、みなさまもご承知のとおり、ながく学問の世界に身を置いてきたものでも、また博物館のなかで育った人間でもありません。しかし、北海道の行政にたずさわるなかで、博物館という施設にも気を配ってきたことも事実であります。

私事ではありますが、みなさんは北見市の妻沼浩さんが長年収集された蝦夷錦やアイヌ絵を中心としたコレクションのことがまだご記憶にあるかと思います。このコレクションは、現在、開拓記念館のほか、他の博物館にも分散されて保管されるに至ったようですが、このコレクションの一部が、開拓記念館に所蔵されたことは、わたくしの忘れられない仕事の一つであります。

さて、先日、わたくしは日本博物館協会支部長会議と、ひきつづきおこなわれました全国博物館長会議に出席してまいりました。

このような社会情勢でもあり、おおくの博物館にとって厳しい時期を迎えていることは、参加館園のみならず、主催しました日博協や文部科学省の方々とともに口にしておられました。

しかし、そのようななか、なんとかしようという動きも、またつよく感じました。これは川上伸昭文部科学省生涯学習政策局審議官の基調発表のみならず、その後のシンポジウムでも地方の博物館の事例として報告されておりました。

とくに、川上審議官は生涯学習政策として「新しい公共」ということをキーワードとしてあげながら、市民（ここでいう市民はもっと身近な意味をもったものだそうですが、）のみならずさまざまなNPO法人のハブ機能を持ちうる施設の一つとして博物館をあげておられました。わたくしは、そこに、大変だという危機感以上に、むしろ積極

的な国としての期待を感じざるをえませんでした。

たしかに厳しい状況ではありますが、だからといってこのまま手をこまねいてなにもしないで行くのか、それとも可能性を探して、できることをやっていくのか。大事なところだと思います。

ただし、そこには自己努力が必要だということも、同時に、わたくしは申し上げたい。北海道のみならず道内の市町村にあってもけっして余裕があるわけではありません。そんななかで、博物館が要求ばかりをつづけていてもこれは認められることではないでしょう。われわれ博物館側も、ここまで努力をしたというところを見せる必要もあるのではないかと。このことをわたくしは、強く申し上げたいと思うのです。

北海道博物館協会も「博物館」という名前をかかげてはおりますが、もちろんいわゆる博物館だけが対象ではないのです。美術を扱う美術館、生き物を扱う動物園や水族館、植物園、また科学の博物館である科学館など、そのような施設が集まって、おたがいが知恵を絞って、お客さんのためになにができるのか、考えていく場所、それがこの協会であると考えております。

わざわざ足を運んでくださるお客さんのために、わたくしたちができることは何なのか。どうすれば満足していただけるのか。その点をしっかりと見据えながら、北海道の「博物館」を、誇りを持って次の世代に渡していけるものとしていただきたいと思います。わたくしも、いっしょに考えて参りたいと思っております。



石狩・後志  
空知地区  
News

## 平成22年度 総会・研修会・役員会

久し振りに青空が広がった平成22年5月26日、石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会（通称：道央ブロック）の平成22年度総会、第1回研修会及び第1回役員会をサッポロビール博物館に会場をお借りし、開催しました。

研修会では、サッポロビール博物館 館長 松澤和則氏による「北海道開拓使札幌麦酒醸造所の歴史」、「北海道庁との連携協定による観光」、「博物館園との連携」についての講義があり、札幌麦酒醸造所の歴史については、開拓使勸業課長 村橋久成（薩摩藩主島津家一門）、麦酒醸造人 中川清兵衛（越後国（現在の新潟県）出身）等が果たした業績等の説明があり、道庁との連携協定による観光の具体的な取組みについては、①大通ピヤガーデンでの毎日のイベントを道内の各地域の観光をPRする場とすることに変更し、既に60以上の自治体がPRを行っていること。②各地で行われているイベントや各自治体で開催しているふるさと祭りなどに対する支援、協賛を行っていること。③各地域の特産品を活用した、地域ビールの醸造。等々を行っているとの説明があり、他の博物館園

との連携については、博物館の展示物をビールに関連するもの中心から、北海道の歴史などにも併せた内容とすること。また恵庭市にあるビール工場を観光を意識した施設に変更していく予定であることなど。松澤館長の歯切れの良い軽快なタッチの説明を参加者一同、熱心に聞き入っていた。なお、研修会終了後の意見交換会では、ジョッキを片手に盛り上がったことは、言うまでもない。



in サッポロビール博物館

詳細は、『道央MUSEUMニュース』第33号で報告します。HP「道央ミュージアムネット」でもご覧いただけます。

（道央ブロック事務局長 三谷十三男（北海道開拓の村））

道南ブロック  
News

## 企画展 「人物を通じて見た江差の箱館戦争」

旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）では、4月24日から8月22日にかけて、企画展「人物を通じて見た江差の箱館戦争」を開催している。

この企画展では、箱館戦争において江差に関わりのある清水谷公考・三上超順・榎本武揚・大鳥圭介・土方歳三・山田顕義・品川弥二郎の7人をピックアップし、当館所蔵資料や町内外からの借用資料を展示して解説している。

展示している資料は、清水谷公考が江差の鎮守姥神大神宮へ参拝した際に奉納されたと伝えられる和歌や、榎本武揚が江差の松岡四郎次郎などへ宛てた書状、江差の招魂場設置について長州藩と江差商人のやりとりが記された資料、などとなっている。

また、企画展に関連して、様々な活動を展開している。当施設の敷地内には、「土方歳三嘆きの松」とのいわれを持つ古松があるが、その松を背景にし、複製軍服を着用して写真撮影をすることができる。5月4日・5日には、「こどもの日に郷土資料館であそぼう！」と題した活動を行ったが、その一環として箱館戦争にまつわる双六を作製し、

自由に遊べることとした。また、開陽丸遺跡から出土したドミノ牌を展示していることに関連させ、市販のドミノ牌も用意し、海外で遊ばれているルールの紹介などをした。6月11日（金）・18日（金）・25日（金）には、「幕末・箱館戦争の手紙を読もう！」と題した古文書解説講座を開催した。テレビドラマの影響で幕末維新ブームが続いているが、全3回の講座中のうち最初の1回は、北海道坂本龍馬記念館で所蔵している坂本龍馬の書状を題材とし、後の2回は江差に関わりのある旧幕府軍・新政府軍の書状を題材とした。



古文書解説講座の様子

（江差町教育委員会 学芸員 宮原 浩）

道北3管内  
News

## 第59回企画展 「新収蔵品展」から

旭川市博物館では、4月29日(木)から5月30日(日)までの約1ヶ月間、第59回企画展「新収蔵品展」を開催しました。

今回の企画展は、平成21年度中に当博物館に寄贈された資料1,000点ほどの中から、昭和初めに購入された、細やかなスケッチが印象的な化石辞典や、戦前期の旭川の街中の様子をとらえた白黒写真、昭和30年代に発行された旭川市内の観光名所を紹介したパンフレットなど、生活資料や自然科学資料を中心に140点ほど展示し、旭川市民をはじめ、多くの方々から寄贈いただいた資料をいち早く披露することで、多方面からの資料収集を根幹とする博物館運営に理解を深めてもらう目的で開催されました。

当博物館が収蔵している資料は、平成20年度末で約8万点にのぼり、資料の多くは旭川市民をはじめ、多くの方々からの善意ある寄贈で賄われています。しかしながら、常設展示室や企画展等で展示される資料は全体のごく一部にとどまり、

多くの資料は展示計画の都合などから、なかなか市民の方々の目に触れる機会がないのが現状でした。その中で今回、収蔵されたばかりの資料を速報的ながらも展示し、市民の方々に紹介する機会を得たことは、非常に意義深いものだったと考えています。

期間中は約2,000人もの方々が足を運び、展示されている資料に興味深そうに見ていました。中には1970年代の旭川冬まつりの観光ポスターを前に、当時の思い出話に花を咲かせる方や、化石辞典に描かれたスケッチを丹念にご覧になっていた方もおり、おおむね好評のうちに会期を無事終えることができました。

最後に、ご尽力を賜りました関係者をはじめ皆様方に厚く感謝申し上げます。



企画展の様子

(旭川市博物科学館 蛇見尚吾)

日胆地区  
News

## 苫小牧市博物館 特別展 「紙をつくる 紙でつくる」

初めて苫小牧を訪れる人は「街の中心に大きな工場がありますね。」という感想をよく口にされます。地元民にとっては見慣れた景色も外から訪問者の目には随分と不思議な景観に映るようです。苫小牧市のランドマークともなっている王子製紙株式会社苫小牧工場が進出して、今年で節目の100年を迎えます。苫小牧市博物館では工場操業100年と博物館開館25周年を記念して8月7日から9月26日まで特別展「紙をつくる 紙でつくる」を開催いたします。王子製紙苫小牧工場進出の背景には新聞用紙の国内自給を目指す先人たちの思いがあり、操業から現在に至るまで世界屈指の近代的製紙工場として、紙の文化を支え続けた歴史があります。展示前半の「紙をつくる」では、進出の背景や工場の操業と歩調を合わせて発展を遂げた苫小牧の歴史を王子製紙所蔵の文書や図面、写真、苫小牧村の古地図などを用いて紹介します。また、平成19年に経済産業省の近代化産業遺産として認定され、市街地に保存されている王子専用軽便鉄道(山線)や赤レンガ建築として市民に親しまれている工場旧事務棟、千歳水力発電所など

に関する資料を併せて公開します。

また、後半の展示「紙でつくる」では、明治時代に高級壁紙として欧米に輸出され、国内では鹿鳴館、旧岩崎邸、旧日本郵船小樽支店などの壁を彩った「金唐草紙」とその高度な技術を現代に甦らせた「金唐紙」の作品の数々を公開します。さらに道内在住の紙彫刻家 今偉正氏、ペーパークラフト作家 林啓一氏の協力を得て、まさに「紙(神)業」とも言うべき緻密で精巧な紙で作られた作品120点あまりを紹介します。なお、開催期間中の土曜日には紙のアーティスト達を講師に招いて講演や講習会も予定しています。

1910年の工場操業から100年。王子製紙苫小牧工場と「紙のまち」から工業都市として発展してきた苫小牧の歴史を見直すとともに、過去から未来へつながる豊かな紙の可能性を多くの方々にご覧頂ければ幸いです。



王子製紙苫小牧工場旧事務棟

(苫小牧市博物館 学芸員 武田正哉)



### 研修会

## 「忠類ナウマンゾウ発掘40周年記念集会」

1969年から1970年にかけて忠類村（当時）で発掘されたナウマンゾウは、動物としてもその標本としても我が国を代表する化石資料といえます。20体を超える復元骨格は各地の博物館に展示され広く国民に親しまれてきました。

近年、道内の象化石については、ナウマンゾウ湧別標本や根室海峡底からのマンモスゾウ臼歯の相次ぐ発見などが続き、古生物学や古環境の見直しが迫られています。忠類標本についても新たな事実が判明し、年齢や化石化過程などの解釈が書きあらためられました。

さらに、2007～08年には、化石産出地の再調査がおこなわれ、象の存在を示す堆積構造がいくつかの層準で確認されるなどの発見もありました。

かつて北海道の大地を闊歩したナウマンゾウ。北海道の第四紀の象徴的存在として注目されます。

くわえて、北海道の博物館関係者にとって、「忠類サイト」は特別に重要な意味をもっているといえます。現在の北海道の陸生哺乳動物相が成立したのは第四紀更新世の後期と考えられますが、その証拠となる化石の産出は多くありません。しか

も科学者が計画的に発掘して化石資料を得た場所は「忠類サイト」が唯一なのです。

再調査で見つけたのは足跡の可能性が高いくぼみです。象は何代にもわたってこの地に生息していたらしいのです。そこに象だけしかいなかった、ということはない。ほかの動物についても何らかの手がかりが残されている可能性が高く、北海道にとって「忠類」が持つ意義はたいへんおおきいのです。

発掘から40年の今年、新しいイメージをまとった姿を関係者で確認する計画が持ち上がりました。道内の博物館関係者にも是非ご参加いただきたいと存じます。

### ☆忠類ナウマンゾウ発掘40周年記念集会☆

日時：7月11日(日)13時～

会場：幕別町忠類ふれあいセンター福寿

第1部 はじまり

発掘の記録映画

発掘指導者亀井節夫さんのお話し

第2部 シンポジウム

高橋啓一さん(滋賀県立琵琶湖博物館)

近藤洋一さん(信濃町立野尻湖ナウマンゾウ博物館)

北沢 実さん(帯広百年記念館)

(足寄動物化石博物館 館長 澤村 寛)



## ザリガニの生態を手づくりジオラマで紹介 美幌博物館「ザリガニの暮らし」

ザリガニの生態などを紹介する企画展「ザリガニの暮らし」が、2010年3月28日から5月30日まで美幌博物館で開催された。この企画展は美幌博物館が調査研究してきたザリガニを多くの人に知ってもらうとともに、2008年に町内で確認された特定外来生物のウチダザリガニの駆除作業をボランティアと共同で行ってきた活動の成果を紹介している。「ザリガニはどんな生きもの」「ザリガニがすんでいる環境」「ザリガニの暮らしぶり」「人間とザリガニの関わり」「美幌にやってきた外来ザリガニ」など、昔から生息していたニホンザリガニと外来のウチダザリガニに分け、生態や生息状況を標本、標本模型、立体模型やパネルなどでわかりやすく紹介。また、ウチダザリガニの駆除作業の様子のビデオも放映されていた。特にザリガニが生息する川底の様子や、生息環境、子どもたちがザリガニ捕りをする情景などのジオラマは、今まで調査研究していたからこそ、ここまで復元出来たと思わせる内容で、ついジオラマの中に入り込んでしまいそうである。話を聞くと、これらは全て館職員と「ふるさと美幌の自然と語る会」

の共同作業で製作したものだということであった。そしてザリガニが音センサーにより這い出るジオラマは、技術的にも視覚的にも優れており、経費をかけなくても、専門業者に発注しなくても、効果的なジオラマができることを実感した。それ以上に内容の深さ、生態の確実さ、何を知ってもらいたいかなど、展示効果を意識した作りなど、資料に関わってきたからこそ出来た内容であり、製作者の心が感じ取ることが出来た。また、ジオラマの横には制作方法などの説明があつて細かい配慮がなされ、この企画展の目的は十分果していると思った。なお、美幌博物館では本企画展の展示資料を、希望すれば貸し出すとのこと。



ザリガニが生息する川底の様子

(紋別市立博物館 館長 佐藤和利)

動物園・水族館  
News

## 円山のイコキロが 帯広にやって来た

今年の2月から、北海道内の4つの動物園が協力し合い、大々的にホッキョクグマを移動させ、繁殖促進に向けた取り組みを行なっています。

おびひろ動物園にいたピリカは、札幌・円山動物園に里帰り。その代わりにやって来たのが円山ツインズこと、双子の兄弟・イコロとキロルです。

双子とあってよく似ている2頭ですが、担当者の話しでは、イコロは慎重派、キロルは元気もりもり派と性格には違いがあるようです。正直言って、私には2頭の区別がまだはっきりとはついていないのですが…。

初めのうちは、慣れない獣舎を探索したり、2頭で寄り添ったりもしていましたが、自立心が芽生えてきているのか、次第にそれぞれで行動することが多くなってきているようです。彼らも大人への階段を一步、一步、着実に上がっているのでしょうか。

うなり声や吼え声なども大きくなり、ちょっぴり野生の怖さを感じさせる時もあります。イコロにいたっては、獣舎の頑丈な鉄製の扉をガンガン叩いて壊してしまい、もう、2度も補修させられ

ているほどのやんちゃぶりを発揮し、「破壊魔王」などと呼ばれています。

そうは言っても、好奇心いっぱい、遊び心に満ち溢れた子ぐまであることには変わりなく、プールでじゃれ合ったり、取っ組み合ったりしている姿は、まだまだ子どもっぽさが残っており、今では、すっかりおびひろ動物園屈指の人気者。帯広・十勝の皆さんのハートをガッチリとわしづかみにした模様です。

これから、どんなオス熊に成長していくのか、どんなお嫁さんと巡り合えるのか、どれだけ扉が叩き壊されるのか、温かく見守っていきたいと思っています。



区別できますか。イコロ(向かって右)とキロル(向かって左)

(おびひろ動物園 園長 藤川 研)

学芸職員部会  
News

## 地域内・地域間連携

2002年、82年の歴史を持ち、釧路のまちの発展に大きく寄与してきた太平洋炭礦の閉山を機に、釧路市は炭鉱関係資料を収集・保存する記録化事業を行った。会社関係資料が市へ寄贈され、これを受けて市内小学校の一教室に炭鉱資料室が設置された。以後、会社のOB会によって整理が進められ、資料室の公開、他施設で写真資料のパネル展示等を行いながら、市民に広く紹介している。

一方、当館においてもここ数年、先ほどのOB会や道内・道外の博物館学芸員や研究者などと交流を重ねながら石炭産業に関わる情報収集を行い、企画展等の事業で広く公開してきた。このような状況の中、昨年度に文化庁の美術館・博物館活動基盤整備活用支援事業として『「炭鉱(ヤマ)のくらし・マチの記憶」継承～地域内・地域間連携事業』を実施した。

この事業では、炭鉱に関わる人々の暮らしを記録した写真が中心のパネル展、図録の発行、関係地を巡るバス見学会を開催する一方、交流企画展やフォーラム、炭鉱映画上映会を開催した。前者は当館と炭鉱OB会、炭鉱資料室を管理する市地

域史料室との「地域内」連携で、後者は旧産炭地の博物館施設等との「地域間」連携で実現した。各事業はいずれも市民の間に反響を呼び、多くの方々に博物館へ足を運んでいただいた。

「博物館で何やらやっているぞ。」それまで石炭・炭鉱のことについて興味を示して来なかったと思われる方々が今、博物館にやって来ている。また、OB会の皆さんも自らが行ってきたことをご覧いただくことで、ますます生き生きと活動されている。連携した博物館施設間では、さらなる連携を目指して広域化・事業の深化が始まろうとしている。連携そのものは目新しいことではないが、連携することの重要性を実感している。



多くの人々にでぎわうパネル展会場

(釧路市立博物館 学芸専門員 戸田恭司)



### 釧路市こども遊学館 野口聡一宇宙飛行士に大歓声！

2010年1月19日、釧路市こども遊学館は、大歓声に包まれました。その夜、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) のご協力により、国際宇宙ステーション (ISS) に長期滞在中の野口聡一宇宙飛行士と交信イベントを行いました。これは北海道では初めてのことで、衛星回線やインターネットなどを用いて、ISSと釧路を結び、さらに陸別町銀河の森天文台を結んでの3中継でした。

午後9時を過ぎてからの遅い時間のイベントでしたが、宇宙少年団釧路分団の子どもたちを始めとして、300名近い熱心な方々が集まりました。

蝦名大也釧路市長や交信者に選ばれた子どもたちが緊張の面持ちで壇上に並ぶ中、NASAからISSに呼びかけるように指示がありました。司会者が英語で呼びかけると、地球上空400kmの周回軌道上にいる野口さんがはっきりと日本語で返事をしてくれました！野口さんの映像と音声会場に届いたときは、会場中が歓声をあげました。

釧路から7人、陸別からも7人の交信者が、交互にそして次々と投げかける質問に、野口宇宙飛行士は丁寧に答えてくれます。時には、宇宙食や

マイクなどを小道具に使いながら、無重力での現象や宇宙での生活を分かりやすく説明し、子どもたちの疑問を解き明かしてくれました。

当初予定していた時間を少しオーバーしてまで熱心な交信が行われ、野口宇宙飛行士は会場にいるみんなにメッセージもくれました。最後には、時間の都合でカットすることになっていた無重力での宙返りも披露してくださいました。

宇宙空間で活躍中の宇宙飛行士さんとリアルタイムに交信し、一体となった喜びは、多くの人に大変な感動をあたえました。

釧路と陸別のみなさんにとって、忘れられない思い出の一夜となりました。



野口宇宙飛行士と交信者のみなさん

(釧路市こども遊学館 学芸員 多胡孝一)



### 旭川彫刻フェスタ2010 10周年記念展

旭川市彫刻美術館 2010.7.24(土)~2010.10.3(日)

北海道立旭川美術館 2010.8.3(火)~2010.9.8(水)

旭川市は、近代彫刻に偉大な功績を残した旭川ゆかりの彫刻家、中原悌二郎を顕彰するとともに、日本彫刻界の発展に寄与する目的で創設した「中原悌二郎賞」、中原の記念美術館である旭川市彫刻美術館を擁しているほか、野外にも沢山の彫刻作品が設置されているなど、1970年代初頭から「彫刻のまち」を標榜したまちづくりを行ってきました。

そんななか、「もっと彫刻に親しんでほしい」との思いから、2000年7月、旭川市、北海道新聞旭川支社、市民からなる旭川彫刻フェスタ実行委員会が発足、旭川彫刻フェスタは始まりました。「上川人の息吹」と副題が付けられた旭川彫刻フェスタ2000のメイン事業として、旭川在住の彫刻家3名が市内で石彫の公開制作を行い、「場」と「彫刻」の関係について、地元作家三者三様の提案がなされました。このほか、親子向けの彫刻教室や、彫刻フォーラム等、市民の方々が彫刻に親しむきっかけとなるような事業を行いました。

以後、隔年で公開制作を開催しながら、旭川彫

刻フェスタは今年で10年の節目の年を迎えます。本年は、過去10年間に公開制作を行った彫刻家9名と1集団の作品を旭川市彫刻美術館と道立旭川美術館の2会場に展示し、旭川彫刻フェスタ10年の歩みと、公開制作参加作家の「今」をご紹介します。このほか、「10年」という時間の経過に焦点を当て、過去のワークショップ参加者を対象に行うプレ・ワークショップや、市内各地に設置されている公開制作作品を鑑賞するツアー、2会場を巡るツアー等を開催するなど、様々なイベントが展覧会を盛り上げます。

旭川彫刻フェスタ10年の活動が創り上げた「彫刻のまち旭川」の「今」を感じていただく機会になれば幸いです。



旭川彫刻フェスタ2008 公開制作の様子 (森川亮輔氏)

(中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 鎌上 壘)

## 館園の主な展覧会と普及事業 (2010年7月～10月)

### 石狩

#### いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

- 6/23-8/1 テーマ展 縄文土器の世界へ  
7/3 体験講座 地層と化石/ラボ編  
7/10 オトナの体験講座/化石複製計画  
7/31 体験講座 勾玉作り教室  
7/17, 24, 9/未 縄文土器復元講座(3回)  
8/-9/上旬 テーマ展 昭和なおもちゃ  
8/14 体験講座 化石のレプリカをつくる  
9/4 体験講座 フライドチキン骨格標本をつくる  
9/下旬-10/ テーマ展 イシカリのかたち

#### 江別市郷土資料館 (011-385-6466)

- 6/19-8/22 特別展「甦る縄文文化～かえってきた土偶たち」  
7/3 縄文文化講演会  
8/1 おおあさ縄文遺跡めぐり

#### 札幌市青少年科学館 (011-892-5001)

- 7/24-8/22 夏の特別展「サイエンジャーのエネルギーパーク」  
7/24 プラネタリウム夜間特別投影  
7/24, 8/28, 9/19, 10/30 科学館天体観望会

#### 札幌市豊平川さけ科学館 (011-582-7555)

- 7/3, 10, 24, 31, 8/21, 28 サケたちの無料エサやり体験  
7/4, 11, 18 さかなウォッチング 星置川, 琴似発寒川, 北の沢川

#### 9/20 さっぽろサケフェスタ2010

#### 10/2, 16, 30 サケ・タッチ・プール

#### 10/3 採卵実習

#### 10/9, 23 サケの人工受精体験

#### 10/10 琴似発寒川サケ観望会

#### 10/17, 24 サーモン・ウォッチング 豊平川, 星置川

#### 北海道開拓記念館 (011-898-0456)

- 8/6～11/3 第60回特別展「どんぐりコロコロ」  
7/25 体験講座「アイヌ文化にふれるーすだれの壁かけをつくろう」  
8/1 特別企画「電子顕微鏡で迫るミクロの世界」  
9/19 講演会「どんぐりの魅力」  
10/24 シンポジウム「海・森・人」

#### 野外博物館 北海道開拓の村 (011-898-2692)

- 7/17-8/15 『夏・むら・ろまん』  
7/23-8/25 特別展『明治のころの学び』  
8/21 講演会『明治期の教科書に見る北海道の姿』  
9/18-20 『秋のふるさとまつり』

#### 北海道大学総合博物館 (011-706-2658)

- 7/10 土曜市民セミナー「ベーリング海峡を渡った恐竜」  
8/14 土曜市民セミナー「北海道の博物館の未来ー将来構想を考えるー」  
9/11 土曜市民セミナー「法医学と博物館」  
7/下旬-9/ 企画展示 アラスカ恐竜展(仮称)

#### 北海道立近代美術館 (011-644-6881)

- 7/3-10/17 常設展 北海道の美術-北の自然と人々  
7/3-10/17 ウォームアップ・ギャラリーどっち!?ー挑戦・アートの謎解き  
7/3-10/17 「ふれるかたち」展  
7/3-8/22 特別展 古代ローマ帝国の遺産ー栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ  
7/3-10/17 特別展 創造と回帰 現代木彫の潮流  
7/23-8/17 ミュージアムスクール2010「いざ体験! 見るだけじゃない美術館!」  
10/1-5 移動美術館 (三岸好太郎美術館と連携) 月形町  
10/8-12 移動美術館 (三岸好太郎美術館と連携) 長沼町  
10/30-11/7 特別展 創立75周年さわらび会書展

#### 北海道立三岸好太郎美術館 (011-644-8901)

- 6/18-9/5 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第2期ユーモラス・三岸, 特別展示 (犬)  
7/1 開館記念日 (無料開放), アンヴァーサリー・コンサート  
7/23 カルチャーナイト (夜間無料開放), PMF修了生による演奏会 (予定)  
7/24-8/22 たんけん美術館 夏休み  
7/30, 31 とっておきワークショップ  
8/3-6 フリー・アトリエ  
9/11-10/24 特別展「日本近代洋画と三岸好太郎 Part2」

### 後志

#### 小樽市総合博物館 (0134-33-2523)

- 7/17-9/5 本館企画展 アイヌ-美を求める心  
7/17-19 特別投影, 星空観望会マック彗星  
7/24 ワークショップ「昆虫標本を作ろう」  
7/31, 8/2 星空観望会  
8/5, 6 科学の祭典  
8/28 観望会 天狗山, 自然観察会  
8/29-10/4 運河館企画展 道立アイヌ民族文化研究センター主催「アイヌ語地名を行く」  
9/4 アイヌ語地名講演会

#### 9/11-10/3 日本銀行金融資料館での写真展

#### 9/中旬 本館企画展レッドリスト小樽ー絶滅の危機にある小樽の動植物

#### 9/18 運河館ギャラリートーク ニシン場

#### 9/19 特別投影, 星空観望会 金星

#### 9/下旬 ミュージアム・ラウンジ

#### 9/22 お月見

#### 10/3 キノコと秋の自然展

#### 10/9-11 昼の天体観望会 太陽

#### 10/7-1/14 運河館・小さな企画展④

#### 小川原脩記念美術館 (0136-21-4141)

- 7/23-8/22 しりべしミュージアムロード共同展  
8/25-9/26 第52回鶴巻会展  
8/30-10/8 10造形展 風の中の展覧会Ⅶ (野外展)  
9/30-11/14 小川原脩 自伝風な展覧会 一定番作品 選集ー  
9/30-11/14 谷ロー芳展ー森よ還れ・フクロウたちの詩

#### 木田金次郎美術館 (0135-63-2221)

- 6/18-7/19 「藤倉英幸と旅のイメージ」  
7/1-11/7 特別展示 木田金次郎の交流圏「田上義也ー北方建築の種」展  
7/10 ワークショップ「身近なものを絵にしよう」  
7/10 美術館講座 第2回「旅を巡る作家たちー田上義也と藤倉英幸」  
7/16 第16回 木田金次郎生誕祭  
7/16 ミュージアムコンサート  
7/17 記念講演会「田上義也の作品と建築観」  
7/23-8/22 しりべしミュージアムロード共同展 [5W1H] Where? どこを描いたの?  
8/4 夏休みワークショップ  
8/21 夏のナイトオープン  
9/11 美術館講座 第3回「建築探訪バスツアー」

#### 西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

- 7/23～10/17 常設展 夏から秋の展覧会 西村計雄の「山の旅」  
7/23～8/22 しりべしミュージアムロード共同展 「5W1H-How? どうやって描いているの?」  
7/24-8/15 夏休み! 自由研究応援部隊  
8/25-10/17 特別展 山岸正巳展「パリの横顔」  
10/21～3/13 全館展示 没後10年 西村計雄「少年の旅路」展  
10/31 開館11周年記念コンサート&チーズパーティー

#### 余市水産博物館 (0135-22-6187)

- 8/24-10/3 第36回特別展「積丹半島の岩石・鉱物」(仮)  
8/中 「モイレ海岸の観察会」(仮)

### 空知

#### 三笠市立博物館 (01267-6-7545)

- 8/1-29 特別展「荒木一成 恐竜模型の世界」  
8/1, 7, 8, 22 第2～5回アンモナイトの観察

### 渡島

#### 市立函館博物館 (0138-23-5480)

- 7/24-9/26 特別展「縄文の至宝ー世界遺産をめざす15遺跡と土偶ー」  
7/24-9/26 箱館奉行所復元記念企画展「幕末の動乱と蝦夷地への道ー幕末の志士達と箱館戦争ー」

### 松山

#### ピリカ旧石器文化館 (0137-83-2477)

- 7/17 石器づくりのセミナー  
8/1 ピリカ遺跡まつり  
8/21, 9/18, 10/16 石器づくりのセミナー

### 上川

#### 旭川市科学館「サイバル」(0166-31-3186)

#### 7/10-9/12 特別展「恐竜サイエンス」

#### 旭川市博物館 (0166-69-2004)

#### 7/10-9/12 特別展「恐竜サイエンス」

#### 7/17-19 もっと知りたい博物館

#### 7/19 大人のための自然観察会「沼の平」

#### 7/29-30 サイエンスキャンプ

#### 8/5-8 夏休み博物館体験

#### 8/5 体験講座 本格派! 化石のレプリカづくり

#### 8/7 体験講座 有孔虫の化石を取りだそう

#### 8/11-15 Night museum

#### 8/11, 12 体験講座 すぐのできる化石のレプリカづくり

#### 8/13 まが玉を作ってみよう

#### 8/15 博物館8月講座

#### 9/18-26 もっと知りたい博物館

#### 9/26 旭川史跡ぶらぶら巡り

#### 10/2-11/29 第60回企画展「旭川のお菓子屋さん」

#### 10/中旬 ストーンサークル見学

#### 名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

#### 7/24～8/22 特別展 SLメモリアル展

#### 8/28～9/12 企画展「風花」会員作品展

#### 10/8～10/24 企画展 銭湯物語

#### 5/～12/ 自然観察会 小さな自然観察クラブ

#### 富良野市生涯学習センター

#### (富良野市博物館 0167-42-2407)

#### 7/3 ワークショップ「アートを楽しもう」

#### 7/19 富良野の自然に親しむ集い 第2回

#### 7/23 特別展開催記念事業 自然史講演会「森と川に生きるシマフクロウ」

#### 7/24-9/12 第18回特別展「森の神シマフクロウ」

#### 7/31 「博物館・美術館めぐり」/ワークショップ「アートを楽しもう」

#### 8/12 富良野の自然に親しむ集い 第3回

#### 9/4 ワークショップ「アートを楽しもう」

#### 9/26 富良野の自然に親しむ集い 第4回

#### 10/22-24 「測量の日」記念事業「伊能忠敬大図フロア展 in ぶらの2010」

#### 10/23 「伊能忠敬大図フロア展」記念講演「古地図から浮かび上がる蝦夷地と人々の姿」

#### 北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

#### 6/5-7/25 片岡球子展

#### 7/10 講座「片岡球子ー面構の魅力」

#### 8/3-9/8 旭川彫刻フェスタ

#### 8/(予定) 夏休みワークショップ

#### 9/18-11/28 ウルトラマン・アート!

**宗谷**

オホーツクミュージアムえさし (0163-62-1231)  
7/25-9/5 展示会「枝幸砂金」展

**胆振**

室蘭市青少年科学館 (0143-22-1058)  
7/3 はれるんお天気教室(予定)  
7/24-25 原子・分子模型展(予定)  
8/7-9 夏休み科学館祭  
9/12 科学の祭典  
9/29-10/3 宇宙の日作品展  
10/8-10 盆栽展  
10/9-11 発明工夫作品展  
10/9,10 JAXAコズミックカレッジキッズコース、ファンダメンタルコース

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)  
7/24-9/5 開館30周年企画展「ペン画と共に観る『とんでん館の収蔵品』」  
8/4 室蘭市「平和都市宣言」啓発事業『戦跡巡り』  
8/8 とんでん館寺子屋教室「紙すきで葉書を作ろう」

**日高**

沙流川歴史館 (01457-2-4085)  
10/5-11/28 特別展「N・Gマンローと二風谷」  
10/9 沙流川歴史館講座「タイトル未定」講師：内田順子(国立歴史民俗博物館准教授)  
平取町立二風谷アイヌ文化博物館(01457-2-2892)  
7/25 博物館めぐりバス遠足  
7/28-8/22 アイヌ文化体験学習講座 木彫コースターを作ってみよう  
10/15-12/15 第17回特別展「アイヌ伝承地を観るー沙流川流域の文化的景観めぐりー」  
10/24 文化的景観現地説明会「アイヌ伝承地を観るー沙流川流域の文化的景観めぐりー」

**十勝**

帯広百年記念館 (0155-24-5352)  
7/25-8/22 企画展 野生生物をしらべる  
7/31 大学が地域と自然を結ぶ  
8/7 体験じょうもんと腕くらべ「石器づくり」、こわい話 朗読の世界  
8/21 体験 砂をじっくり観察しよう  
8/28 見学会 十勝平野の生い立ちを探る  
9/11 レコードと音の文化史XVII  
9/18-10/3 収蔵作品展「桑原翠邦と柴田蕙山 墨蹟展」  
9/25 きらわれもの虫だけど…  
10/16 アイヌ語で自然かんさつ  
10/30 見学会 アイヌの白い岩を訪ねる

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)  
8/10-16 第五福竜丸展示館展  
8/18-29 松浦範子写真展「彼らの居場所」  
8/18-29 水上勉「折々の散歩道」原画展  
8/22 第18回馬掛忌  
10/5-12 第16回馬の絵作品展

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)  
4/16-8/18 常設展 ポスター劇場  
6/18-8/18 特別展 日本近代洋画への道～山岡コレクションを中心に～  
7/17,10/2 キッズ・ミュージアム  
7/24,8/7 ギャラリー・ツアー  
7/31 サマー・ミュージアム  
7/31,9/23 松本道子ダンス・パフォーマンス  
8/28-1/19 ふしぎ…!?謎解き美術館  
8/28-10/24 ミロ展  
8/28 美術講演会  
9/11,25 特別展セミナー

**釧路**

厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)  
7/1-7/23 海の写真展  
7/1-9/30 プラネタリウム番組上映  
8/初-下旬 宇宙の日作品展(仮称)  
10/1-11/30 プラネタリウム番組上映  
10/初旬 床津沼水質調査  
10/初旬 アッケシソウ現地調査  
10/中旬 ふるさと教室  
10/下旬 古文書教室

釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)  
7/24-8/18 開館5周年記念・夏休みイベント「海と船の企画展『わたしたちのくしろ 海となかよし!』」  
7/31・8/1 七夕スペシャル  
9/1-9/26 宇宙月間イベント「宇宙の日」記念 全国小・中学校作文絵画コンテスト作品展  
9/18-9/20 宇宙の日イベント  
10/9-10/11 遊びんピック

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)  
7/6-9/5 メキシコ美術と民衆の世界  
7/18,8/1,15 メキシコ美術と民衆の世界 鑑賞ツアー  
7/24-8/18 キッズ・アトリエ  
7/29-8/1 キッズ・アトリエ・夏休みスペシャル「まめまめに挑戦!」  
7/31 アートシネマ館「三つ数えろ」  
7-8/金 ナイトシアター  
8/7 メキシコ美術と民衆の世界 アーティスト・トーク  
8/28 アートシネマ館「紳士協定」  
9/4 パフォーミングシアター「くるくるシルクの大道芸」  
9/14-10/24 池田緑Silent Breath-沈黙の呼吸  
9/14-11/23 レオナルド・ダ・ヴィンチもうひとつの遺産  
9/14(予定) 池田緑展 関連講演会  
9/25 レオナルド・ダ・ヴィンチ展 関連講演会  
9/26 ミュージアムコンサート「栗コーダーカルテット」  
10/23 アートシネマ館「ハムレット」  
10/24 レオナルド・ダ・ヴィンチ展 鑑賞ツアー

**根室**

根室市歴史と自然の資料館 (0153-25-3661)  
6/8-7/25 企画展『国境標石と樺太の風景』  
7/7,21,8/4,18,9/1,15,10/6,20 藤野家文書解説会  
7/21-8/20 企画展「みちばたの草花展」  
8/3 コウモリ観察会 牧の内ダム  
8/初旬 まが玉づくり体験学習  
9/2 星座観察会(秋)  
標津町ポー川史跡自然公園 (0153-82-3674)  
7/9- 常設展 ポー川史跡自然公園とヒグマ展

**網走**

博物館 網走監獄 (0152-45-2411)  
7/25 夏休み ちぎり絵体験講座  
7/17-30 刑務作業製品展示即売会  
8/1 夏休み 親子で大工道具体験  
8/1-9/30 特別展「網走監獄設立120周年記念中央道路開削工事資料展」  
8/7 七夕  
8/8 大根の種蒔き・じゃがいも畑除草  
8/28 企画展 資料解説会  
9/5 じゃがいもとトウキビの収穫  
9/18-20 二見湖畔神社収穫祭  
9/22 十五夜  
10/23 秋の自然体験  
10/24 大根の収穫と稲架け作業

北網圏北見文化センター (0157-23-6700)  
5/-2/ 少年少女発明クラブ  
5/18-11/7 プラネタリウム「まじめにふまじめかいけつプロリ」  
6/2-8/14 シルクスクリーン講座(全10)  
7/1,9/9,10/14 おさんぽ自然観察会  
7/10 天体観望会 7/12に皆既日食がおこる!  
7/11 楽しい自然観察会  
7/17-8/22 企画展「ミロ展」  
7/28,29,8/5,6 夏休み自然体験教室  
8/8 天体観望会 文化センターまつり  
8/21 天体観望会 太陽観望会月のクレーターを見よう!  
8/26~9/3 夏休み作品標本展  
9/18~11/6 染色講座(全8回)  
9/22 天体観望会 中秋の名月  
10/23 天体観望会 ヴァイオリンコンサート木星と月を見よう  
11/13-12/12 企画展「Npblood21 Vol17・8」

美幌博物館 (0152-72-2160)  
6/27-8/22 ミニ展示「水」  
7/3 びほろふるさと体験隊 第3回「川の味覚を探し隊」  
7/10,17 モノ作り講座「フェルトボールのかわいい小物」  
7/18-10/31 特別展「〜魚つと! 魚々つと! 大公開!!〜 美幌川に暮らす魚たち」  
7/24,25 自然講座 第3回「ヘイケボタルを観察しよう」  
8/6,7 モノ作り講座「輪ゴムでかんたん!草木染め」  
8/9 びほろふるさと体験隊 第4回「キャンプの作戦をたて隊」  
8/10-12 びほろふるさと体験隊「チャレンジキャンプを楽しみ隊」  
8/22 自然講座 第4回「淡水カジカ類の生態と進化」(兼 博物館フォーラム)  
8/28-10/11 ミニ展示「山」  
9/11,18 モノ作り講座「オープン粘土の花びず」  
9/25,26 自然講座 第5回「もっとキノコについて知ろう」  
10/1,2 モノ作り講座「ガラス玉を作ろう 初級」  
10/8,9 モノ作り講座「ガラス玉を作ろう 上級」  
10/17-12/13 ミニ展示「音」  
10/23 びほろふるさと体験隊 第5回「昔の料理を食べてみ隊」

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)  
7/4 ポート・アルバーニカフェ  
7/17-10/17 特別展トナカイのパーカとアザラシのブーツ〜北方の衣文化を探る〜  
7/24,8/7 土器づくり①形づくり, ②野焼き  
7/25 講座 第25回特別展展示解説会  
8/8 講座 シンプル織りもの  
8/21 講習会 樹皮糸でストラップづくり  
9/4,18 講座 北海道博物館紀行「紋別市立博物館①, ②」  
9/4-12 移動展示 イヌイトの壁掛けと楽しい玩具  
9/12 移動講座 イヌイトのおもちゃづくり  
10/2 移動講座 ウイルタの文化  
10/2,3 講習会 伝統のアイヌ文様と刺繍入門〜カバラミツ技法による巾着づくり  
10/16-17 第25回北方民族文化シンポジウム  
10/23 講座 カムチャツカ風サケ料理  
紋別市立博物館 (0158-23-4236)  
7/17-8/7 全国組み木フェスティバルin紋別「全国組み木作家の作品展」  
テーマ「オホーツク・北の国から」作品展  
9/25-10/24 企画展「アートとの対話〜オホーツクからの発信」